

6月上旬頃に実施することが望ましい。尾叉長75~85mm,体重10~15gで養成を開始すれば、12月末の年内までに尾叉長19cm,体重150g程度の成長が期待できるものと考えられた。

2. マダイ

石垣島川平湾におけるマダイの成長は養成開始後12月下旬には163g,19ヶ月後には693g,23ヶ月後には平均尾叉長35.0cm,平均体重1,100gに達した。マダイはミナミクロダイ以上の成長を示し、沖縄県内において6月末までに10g種苗まで生産し、その後本土側海域で養成を開始すればマダイについても年内出荷の可能性が充分考えられた。

3. コガネシマアジ

静岡県におけるコガネシマアジの養成は昭和58,59年の兩年とも12月中旬までは順調に飼育されたものの、その後15℃以下の低水温の影響で飼育中止を余儀なくされた。川平湾における養成結果は平均体重12.1gの稚魚が9.5ヶ月後には383gに成長した。大宜味村塩屋湾における養成結果は飼育開始時0.54gの稚魚が169日目の昭和60年1月31日には平均尾叉長14.5cm,平均体重73.4gに達した。12月中旬頃までは直線的な伸びを示したものの水温が18℃以下に下降すると成長は鈍化傾向であった。

VII 残された問題点

1. 親魚と採卵

ミナミクロダイ,マダイの親魚養成中、夏期の高水温時期に陸上水槽,海面の小割生簀において細菌性疾病が多発する傾向にあるため、その対策と予防。

コガネシマアジの採卵方法の検討,浮上卵率,ふ化率の向上。

2. 種苗生産

ミナミクロダイについては寄生性原虫の対策、マダラハタは初期飼育における適正餌料、特に小型ワムシ以前の餌料について検討する必要がある。コガネシマアジは日令20以降における大型餌料、特にチグリオプス,天然プランクトンの500μ以上の餌料の確保。

3. 中間育成試験

ミナミクロダイ,マダイ,コガネシマアジ各魚種の生簀収容直後から10日間以内における減耗防止,養成アルテミア,天然プランクトン等の餌料大量培養,採集方法の検討。

1. ミナミクロダイ

項目	昭和 55 年	昭和 56 年	昭和 57 年	昭和 58 年	昭和 59 年
親 魚	77尾(350~1,450 ^g)	73尾(350~1,450 ^g)	55尾(480~1,600 ^g)	50尾(330~1,900 ^g)	46尾(366~1,717 ^g)
産 卵 期 間	昭和54年12月29日	昭和55年12月29日	昭和56年12月25日	昭和58年1月27日	昭和59年1月8日
採 卵 量	1,920 × 10 ⁴ 粒	6,641 × 10 ⁴ 粒	1,815 × 10 ⁴ 粒	489 × 10 ⁴ 粒	823 × 10 ⁴ 粒
浮 上 卵 率	66.7%	76.8%	65.3%	60.2%	60.4%

2. マ タ イ

項目	年度	昭和 56 年	昭和 57 年	昭和 58 年	昭和 59 年
親 魚		熊本県産			
産 卵 期 間		4/1, 4/3 2回産卵	3才魚 1~2月(8回) 2才魚 4/2~5/3	4才魚 3/22~4/12 3才魚 産卵ナシ	5才魚, 4才魚, 3才魚 いずれも産卵ナシ
採 卵 量		3.9万粒	3.6万粒	35.1万粒	
浮 上 卵 率		82.6%	189.5万粒 65%	27%	11.5%

3. マダラハタ

項目	年度	昭和 56 年	昭和 57 年	昭和 58 年	昭和 59 年
親 魚		12尾(50cm 3,350g)	11尾(53cm 3,459g)	12尾(53cm 4,137g)	12尾(56.2cm 4,354g)
産 卵 期 間		5~7月(12回)	6~8月 (各4回=12回)	5~8月(合計9回)	6~8月(合計8回)
採 卵 量		1,261万粒	2,942万粒	4,226万粒	5,361万粒
浮 上 卵 率		2.7%	51.4%	83.9%	84.2%
ふ 化 率		56.0%	52.0%	37.6%	81.1%

4. コガネシマアジ

項目	年度	昭和 57 年	昭和 58 年	昭和 59 年
親 魚		親 魚 購 入	8尾(70cm 8~10kg)	7尾(80cm 10kg)
産 卵 期 間		8 尾 養 成	4/28~9/25 (合計33回)	5/27~8/31 (合計35回)
採 卵 量			147万粒	919万粒
浮 上 卵 率			40.2%	43.8%
ふ 化 率			42.2%	42.9%